



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン経済 (12月27日～31日)

1. 日本によるイラン産原油輸入量 (12月29日付イラン・ニュース紙)

日本の財務省が発表した統計によると、11月における日本によるイラン産原油輸入量は、10月の約46万9,000キロリットル (日量9万8,000バレル) と比べ、2倍以上の約124万6,000キロリットル (日量26万バレル) となった [注: 日本の財務省の貿易統計と、経済産業省の石油統計の間には、集計方法の違いによる相違が生じている。経済産業省の石油統計によれば、11月のイラン産原油輸入量は87万キロリットル (日量17万6,000バレル)]。

2. 油田発見によるアフヴァーズ空港移転計画 (29日付イラン・ニュース紙)

イラン政府は、アフヴァーズ空港の直下に油田が見つかったため、同空港の移転を計画している。イラン空港会社は、「石油省は空港の移転を求めており、候補地としてアフヴァーズ市から15km離れた場所を計画している」とした。既に同計画は政府内で議論されており、近日中に移転工事が始まるものと見られる。

3. イラン中央銀行への批判 (27 ジョムフーリーイエ・エスラーミー紙)

国会通貨・信用監督特別評議会のハッサンネジャード国会議員は、イラン中央銀行のバフマーニー総裁が国会の喚問に応じていないと非難した。「バフマーニー総裁は、国会経済委員会等の会合への出席を拒否している。また、イラン中央銀行は国会の求めに応じず、同銀幹部を出席させていない」とした。

4. 非参照レートでの外貨供給 (27日付イーラーン紙)

為替センターのキャリーミー報道官は、12月26日より輸入品リストのカテゴリー8に該当する輸入品に関し、(為替センターによる) 非参照レート (1米ドル=24,500リヤル前後) にて外貨供給を開始したと述べた。

5. 来年の予算における補助金合理化 (30日付ドンヤーイエ・エグテサード紙)

補助金合理化本部書記は、政府が現在立案している補助金合理化第二弾に関し、来年 [ヒジュラ太陽暦 (イラン暦) 1392年 (西暦2013年3月21日～2014年3月20日)] の予算案に実行が盛り込まれる見込みであり、我々は現在その規模について検討していると述べた。

6. 仏プジョー・シトロエン社とイラン市場 (30日付ジヨムフリーイエ・エスラーミー紙)

欧州危機が収束しつつある中、仏 PSA プジョー・シトロエン社は、イラン市場に再度戻ることに関心を示している。しかしイランは、イランで販売している全てのプジョー・モデル (405、PARS、206) に関して国産化を果たしており、仏側からの部品供給を必要としていない。

7. 金および金貨の複数価格制 (31日付シャルグ紙)

政府が決定した金、および金貨の複数価格制がまもなく実施されるであろう。今回の決定に関しては、イラン中央銀行への事前通知は行われず、貴金属協会に対して通達がなされた。複数の専門家は、今回の決定は政治的な意図で行われたものであるとし、金を低価格に設定することにより、一般製品への需要を高め、消費者から現金を集めることにより、補助金支給額を5倍にするための原資作りとする意図があると見ている。

8. 国内航空券価格の改正 (31日付イーラーン紙)

イラン民間航空機構総裁は電話インタビューに答え、来年 [ヒジュラ太陽暦 (イラン暦) 1392年 (西暦 2013年 3月 21日 ~ 2014年 3月 20日)] に国内航空券価格を改正することを明らかにした。その中で、運用機材の新旧や顧客満足度など、様々な基準により価格が設定されるとし、今回発表する価格制度は航空会社にとって適切な競争力をもたらすだろうと述べた。

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799